

教育を担う図書館への転換

利用支援係長 佐々木奈三江 (ささきなみえ)



蔵本分館ラーニング・コモンズでの学習風景

附属図書館に足を踏み入れると、学生の話し声が聞こえてきます。カフェテリアで食事をしながら勉強を教え合ったり、マルチメディアコーナーでパソコンを囲んでグループで課題に取り組んだり。これが「ラーニング・コモンズ」での学びです。

「ラーニング・コモンズ」とは、「複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする『場』を提供するもの」です。大学が「主体的に考える学生の育成」を図るため座学中心から

ター」などの学生団体も図書館で活動しています。これらは直接的な教育ではありませんが、こういった活動は学生自身の成長を促すとともに、他の学生への刺激となっています。

蔵本分館では教員の協力のもと、資料と授業、主体的な学びとを結びつける「授業サポートナビ」の作成を開始しました。また、iPadやBIG PADなど、ICT機器を積極的に活用し、先進的な学習支援を展開しています。

資料を揃え利用者を「待つ」図書館から、利用者と「つながる」ことでニーズをとらえ大学教育を担う図書館へ。変わりつつある図書館の「今」をご紹介します。



マルチメディアコーナー(本館1階)の利用風景

大学における附属図書館の役割とは何か？

附属図書館長(医学部教授) 福井義浩 (ふくいよしひろ)



平成21年に附属図書館本館(常三島)が、平成24年には蔵本分館がリニューアル・オープンしました。今後の図書館運営の方向性を議論する中で、附属図書館は教育・学習支援に軸足を置いた運営をすることになりました。さらに本年4月1日付けで学習支援を担当する副館長に常三島地区担当の依岡隆児教授(総合科学部)と蔵本地区担当の吉本勝彦教授(歯学部)が就任しました。事務組織も情報部から学務部に組み込まれ、ハード面、ソフト面とも附属図書館の基盤作りは完了しました。館

長、南川典昭蔵本分館長(兼学部)、依岡隆児副館長、吉本勝彦副館長と本館・分館の図書館職員がいかに協力して学習支援体制を築くかが今後の課題です。本館では、昨年導入したStudy Support Space (SSS)・教職員・大学院生等による学生の学習相談)による学習支援を全学共通教育センターや各学部等と連携しながら推進したいと考えています。新入生が気軽に学習支援を受けることができるように、教員、大学院生、学部学生の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

今後附属図書館では、ラーニング・コモンズ、グループ学習室・自習室、授業サポートナビ等を充実しアクティブ・ラーニングのための環境を整備し、今まで以上に快適に図書館を利用していただけるようにしたいと思います。また、学生のみならず教職員の皆様に対する教育支援・研究支援にも積極的に協力させて頂きたいと思っていますので、忌憚のないご意見をどしどし図書館にお寄せ下さい。

教育・学習支援の試み

副館長(総合科学部教授) 依岡隆児 (よりおかりゅうじ)



図書館におけるラーニング・コモンズの試みとして、この二つのサークルにも注目していただきます。



附属図書館はSSSや「読書レポート」、『新入生にすすめる私のこの一冊』刊行などで、全学共通教育センターや大学生協と連携協力して、教育・学習支援を行ってきましたが、図書館にはまた、学生たちが学び合いながら主体的に活動するサークルもあります。ライブラリーワークショップは、図書館にまつわる様々な企画を提案・実践してきました。また阿波ビブリオバトルサポーターは図書館を拠点に、ゲーム感覚の書評合戦であるビブリオバトルを実施し、大学・地域社会に読書の愉しさを発信してきました。

附属図書館本館1階のピア・サポートルームで、大学院生等・図書館職員・教員がアドバイザーとして、徳大生の学習に関する相談に対応する企画です。

大学での学習は高校までとは異なり、必要なものを自分で学び取り、分析や考察を加えて、発信していくことが求められます。学ぶための教材も、指定された教科書だけでなく、自分で参考になる文



教員アドバイザーとの相談風景

献を探したり、インターネットで情報を集めたり、現地調査に行くこともあります。そして、学んだことを発信するためにレポートの作成や、プレゼンテーションを行います。これまでに経験したことのない学習法への取り組みは、誰もが簡単にできるようにはなりません。1年生のうちから、意識して慣れていくことが、最も重要です。

SSSでは、授業での疑問や質問だけでなく、レポートの書き方、文献検索の仕方から学習の仕方までサポートします。また、大学生活における相談にも対応しています。SSSは、授業が実施されている期間中であれば、平日の

図書館有効利用のすすめ

蔵本分館長(薬学部教授) 南川典昭 (みなかわのりあき)

学生時代から数えるともう30年以上大学に所属していますが、思い返すと図書館との関わりが極めて希薄であったと反省していま



す。学生時代、図書館にこもって試験勉強なんてことは残念ながら一度もありませんでした。また教員になってからは、図書館で新着の学術誌を積み上げ、何か面白い研究が掲載されていないかを探したりもしていましたが、今は電子ジャーナルが普及し自分のパソコンで簡単に検索出来るため、もう何年も図書館に足を運ぶことはありませんでした。こんな私が蔵本分館長になって実感するのは今の図書館は驚くほどに進化していることです。蔵本分館でも、「授業サポートナビ」、「テーマ展示」、「グループ学習室」など、学生の皆さんの学習支援が非常に充実しています。これを利用しない手はありません。百聞は一見に如かず、是非図書館に足を運んで、自分なりの有効利用法を見つけて下さい。

授業サポートナビ

副館長 (歯学部 教授)
吉本 勝彦
(よしもとかつひこ)



学生の予習、復習を効率化するために、授業を担当する教員と図書館員が、その授業の内容に合わせて「授業サポートナビ」を共同作成し、オンラインでの公開(附属図書館のHP、シラバスからのリンク)あるいはA4 1枚(片面あるいは両面)の印刷体で提供しています。授業サポートナビには、授業内容に即した図書(教科書や洋書を含む参考書)、DVDなどの視聴覚資料、参考となるWebサイトの提示などがコンパクトにまとめられています。蔵本分館2階東館のコルナーにおいて、各学科の学年・授業科目別に整理された書

棚に、図書やDVDを並べています。図書は原則として2冊ずつ配架し、うち1冊は「館内利用のみ」とすることで、図書館にいれば確実に利用できる環境としています。この取り組みにより、学生へのきめ細かな学修支援のみならず、図書館から教員への教育支援を目指しています。平成25年度に歯学部26科目と医学部保健学科の1科目からスタートしましたが、対象科目を順次増やして行く予定です。



図書やDVDを授業別に並べ、探しやすいように工夫しています

グループ学習室

蔵本利用支援係
國見 裕美
(くにみゆみ)



大型タッチディスプレイを使った勉強会の様子

学生の主体的な学びを支援するため、蔵本分館ではICT機器を活用した学習支援を推進しています。その一環としてグループ学習が可能な個室を6室提供し、うち4室は午前0時まで利用できます。昨年度の利用件数は6室合計で約5400件と非常に好評で、利用希望が重なることも多々あります。また、ホワイトボード機能とパソコン機能とを併せ持つ大型タッチディスプレイを5室に設置しています。画面が高精細で、書き込みした内容を保存して持ち帰ることができるため、学生に好評です。また、タブレット端末の画面を無

テーマ展示

國見 裕美

蔵本分館では、教員監修のもとテーマ展示を行っています。書棚に並んでいる状態とは違う視点で本を見ることができ、学生の気づきを促し、より質の高い学習へと導けると考えています。また展示の一環として、iPadで扱える医療関係のアプリを紹介しています。アプリには3D表示やアニメーションが豊富で画像の拡大や回転が容易という、本とは違った利点があります。学習方法の新しい形



iPadの画面と大型タッチディスプレイの連動

学習×図書館

ライブライリーワークショップ



総合科学部
人間文化学科3年
曾我部 静香
(そがべしずか)

私たちは図書館をもっと盛り上げたいと思って活動しています。ですが、何より大事なのは自分たちが楽しいと思えるかどうかです。図書館を盛り上げようとする私たちが楽しいと思えなければ、楽しさは伝わらないからです。

では、どういう風に図書館を楽しんでいるのでしょうか。そもそも、図書館は本が好きでしか楽しめない所だと思われがちです。どうすれば図書館や本にもっと親しみを持ってもらえるだろうかと、いつも頭を悩ませています。図書館の本にPOPや帯をつけたり、POPコンテストを開催したり…。意外と作り始めるのとめり込みます。それぞれが無二の作品で、徳島大



「みんなに図書館を好きになってほしい…」

学に来なければ出会えなかった帯やPOPだと思った時、不思議な気持ちになりました。

他にもライブライリーワークショップ内で好きな本を紹介し合ったり、本が原作の映画を見て語り合ったりしています。普段緒にいる友達の前では照れくさくて言えないことも言える場所です。みんなに図書館を好きになってもらいたいと思って活動していますが、活動する中で一番図書館が好きになったのは自分たちなんです。

阿波ビブリオバトルサポーター



総合科学部
人間文化学科4年
齊藤 桃子
(さいとうももこ)

みなさん「ビブリオバトル」って聞いたことありますか？ビブリオバトルとは、「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」というキャッチコピーで、全国各地で広がりをみせているコミュニケーションゲームのことです。1人5分の持ち時間で自分のおすすめの本を紹介し合い、読みたいと一番多くの人に寄せられた本がチャンプ本となります。

わたしたち阿波ビブリオバトルサポーターは、1年ほど前に発足し、大学の先生や図書館職員の方々と一緒にビブリオバトルの企画・運営をしてきました。去年は4度の大会を開き、イベント型のビブリオバトルを中心に行いました。そのうちの1回を図書館で行い、たくさんのお客さんが来てくださいました。

今年の1月からは図書館1階の

去年は、ビブリオバトルの全国大会であるビブリオバトル首都決戦2013で、徳島からの代表者が見事特別賞を受賞しました。今年も去年以上に充実した年になるよう、ビブリオバトルの活動に力を入れていきます。ビブリオバトルをやってみたい、観てみたいという方はぜひ図書館にお越しください。サポーターも募集しています！

グループワークコーナーで毎月ビブリオバトルをしています。月ごとにテーマをつけて、テーマに沿った発表をするという今までと少し違った方法でビブリオバトルをしています。観覧自由なので、もし見かけたらぜひ聴いて行ってください。

学生による展示

佐々木 奈三江

「作ってみたいとわからないこともあるから、とりあえずやってみよう。」これは、図書館での展示会開催を経験した学生が、初めて展示会を手掛けようとしている学生にかけた言葉です。学生の皆さんは大学で多くのことを学びます。でもそれを「形」として表現する機会はありません。図書館をそんな場として使ってもらえれば、という思いで学生企画による展示会を開催しています。手作業で何かを創ること、どうしたら人に伝えられるかを考えること、何より、自分がやりたいと思った企画を実現するプロセスを経験することは得られない学びが、そこにあると感じています。



ビブリオバトル首都決戦2013徳島・香川地区予選会の様子



学生×図書館コラボ展示「旅への誘い(ぎざない) 海外へのススメ」

伊能図・蜂須賀家史料等デジタル公開

図書情報係長 前田 朋彦 (まえだともひこ)



伊能図
「大日本沿海図稿 南海」
1811年(文化8年頃)

附属図書館は様々な資料を収集しています。その中には貴重資料に指定し閲覧制限して管理している「近世古地図・絵図コレクション」と「蜂須賀家臣成立書并系図」資料があります。

「近世古地図・絵図コレクション」は、約2000点の古地図や絵画的な表現で作成された絵図などです。この中には著名な伊能忠敬が作成した伊能図、幕藩体制下の地方支配を知ることができる阿波・淡路の絵図、徳島藩の測量家によって作成された実測の絵図等

があり学術上重要な資料が多数含まれています。

「蜂須賀家臣成立書并系図」は、徳島藩主蜂須賀家の家臣たちの家の系譜を知ることの出来る史料です。約1800家の初代が誰で、どこ出身か、どのような役職を勤め、禄高、養子縁組、婚姻関係はどうだったかというような情報が詳細に書き記されており、近世における国持大名家臣の様相を知ることができます。

これら貴重資料は、保存と公開を両立する手段としてデジタル化を行い、誰もが気軽にアクセスできるように発信しています。このようにして公開していると様々な問い合わせや要望をいただきます。昨年の事例では、NHKから大河ドラマ「八重の桜」でデジタル画像を利用したい旨の連絡があり協力しました。番組を視聴された方からの問い合わせ等大きな反響がありました。

今年度は伊能図のデジタル画像を使った学習コンテンツ作成の事業を進めていますのでご期待ください。なお、ご紹介したデジタル画像等は附属図書館のHPから閲覧することが可能ですので、ご興味のある方は是非一度アクセスしてみてください。

徳島大学
機関リポジトリについて

雑誌情報係長 田中 孝次 (たなかたかつぐ)

現在多くの大学では、学内で生産された学術研究成果を収集・保存し、インターネット上で無料公開する「機関リポジトリ」というシステムを提供しています。

学術雑誌に掲載された研究成果の利用が有料なのに対し、機関リポジトリに登録された成果は無料で公開されています。また一般の方にも大学の研究内容を知っていただくことができます。さらに昨年より、博士論文の機関リポジリへの登録も義務化されました。附属図書館では、機関リポジトリの内容充実と利用促進のため、教員・大学院生の方へ研究成果の提供をお願いしたいと考えています。

メールアドレス「すたち」を定期的に配信しています。新着本や役立つお知らせが掲載されています。ご希望の方は、図書館HPから配信先のメールアドレスを登録してください。

蔵本分館日誌(ブログ)
蔵本分館では、ブログで情報を発信しています。平日は毎日更新し、今回のように紹介した取り組みについても詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。



蔵本利用支援係のスタッフ

本館の利用支援係のスタッフ



誰にも負けない
自分だけのものを
学びゆけ

大学院ヘルスバイオサイエンス研究所
生体システム栄養科学部門 栄養医科学講座
予防環境栄養学分野 教授
高橋 章 (たかはしあきら)

センター等と連携し、医療現場における栄養管理学を発展させるとともに、臨床栄養管理を指導する教育研究者を育成していきます。予防環境栄養学分野の高橋先生の授業では、医科栄養学の他分野と連携しながら、学生だけでなく医歯薬各部の先生や薬剤師、看護師等も参加して、実際の患者のカルテなどを元に情報交換しながら進めています。

これはNST(栄養サポートチーム = Nutrition Support Team) 職種を越えて栄養サポートを実施する多職種集団を導入したものです。NSTは欧米から広がり、日本でも2000年前後から普及し始め、現在では医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・リハビリスタッフ・管理栄養士等々、全科的なNSTが全国の医療施設で設立されています。

中でも管理栄養士は栄養に関する専門的な知識を持ち、患者の食事摂取量や摂取状況などの情報を元に食事量や食事形態の調節を行うためNSTの中心的存在となってきました。そのために高橋先生もチームのコーディネイト役とも言える立場を担っています。

先生は平成元年に本学医学部医学科を卒業し、その後、アラバマ大学、ピッツバーグ大学、山口大

学、大阪大学と学び、平成12年に徳島大学に帰ってきました。「行く先々で多くの経験とともに多くの師匠や友人と出会うことができ大切な財産となっています」と語る先生の言葉、「徳大の医科栄養学科は恵まれています。学生には学部生の中から現場を学び、この環境の中で多くの経験を積んでもらいたい。そして

て医療の一翼を担うという使命感と、チームの信頼関係を築いていくことも身につけてほしい。また幅広く学ぶことも大切ですが、何か一つ、この分野だけは誰にも負けないという専門分野を持つことも大事です」を学生たちへのメッセージとして紹介していきます。



医科栄養学科は管理栄養士の養成や、栄養学の基礎的研究、研究者・教育者の養成を目的としています。

近年、症例や患者の治療に応じて適切に実施する管理栄養士が、基本的医療のひとつとして見直さ

れる中、徳島大学では国立大学で唯一の栄養学科という優位性を生かして、本年、疾患治療栄養学分野の設置と連動して医科栄養学科として改組されました。

医科栄養学科は医学科臨床医学分野・病院栄養部・臨床試験管理

